次号予告

特集 統合オペレーションの戦略・マネジメント

オペレーションの企業内連結から企業間戦略的連携へ一統合オペレーションの進化一

SCM のための統合モデリング松尾博文 (筑 波 大 学) 統合オペレーション戦略のケーススタディー百貨店チャネルのアパレル流通における

自動車部品取引の「オープン化」とサプライチェーンマネジメントの今後の課題

東京ガスにおける商品流通改革 …………………伊藤武寿, 田中徹之 (東 京 ガ ス)

情報技術の進歩がマーケティングにもたらすもの ……………古川一郎 (一 橋 大 学) オンライン・ショップの情報提供と戦略マネジメント ……………野島美保(成 蹊 大 学)

編集後記

- ●今回の特集では、まちづくりにおける合意形成、計 画の段階的整備の方法, Quality of Life の向上を図る ための政策評価などについて、詳細な具体例とともに 述べられています。良いまちづくりを実現するために は、良い解を得るための手法はもちろんのこと、得ら れた解を実行するための合意形成のための手法がいか に重要であるかを改めて認識いたしました.
- ●別の見方をすれば、最適なまちのかたちを得る方法 についてはこれまで多くの研究がなされてきたが、今 後は得られた最適解をいかに実現するか、ということ にもっと焦点を当てるべきだ、という指針を示した特 集であると言えるでしょう.
- ●合意形成に時間がかかることは、これまで鉄道や高 速道路の完成まで、また逆にダムの建設中止までに数

十年かかったというケースをいくつか思い浮かべるこ とができます。今回の特集で示された指針は、まちづ くりのみに関わらず、福祉政策や税制問題あるいは発 展途上国における経済援助、さらには企業における業 績評価システムなど同じような構造を持つ分野で今後 より一層の重要性を増していくのではないでしょうか. ●「特集にあたって」においてオーガナイザーの谷口 先生が指摘されているように、この問題に取り組むた めには、OR の基本理念に立ち戻ったうえで、現実の 問題と向き合いながら一つずつ解決するしかないよう です。得られる解決方法を手法として昇華させて、 OR 手法において「効率的な合意形成の手法」を体系 化していくことが今後求められていると言えるでしょ

(三浦英俊)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

Э.

委員長 杉野 隆(国士館大学)

委 員 井階美歩(㈱ NTT データ),池上敦子(成蹊大学),大澤義明(筑波大学),大村弘之(日本電信電話㈱), 岡田 勇(創価大学),小沢利久(駒澤大学),住田 潮(筑波大学),高橋一喜(東京ガス(株)),所 健一 (関電力中央研究所),中川義之(キヤノンシステムソリューションズ㈱),生田目崇(専修大学),根本俊 男(文教大学), 松村良平(東京工業大学), 三浦英俊(明海大学), 村井雅彦(㈱東芝), 矢田 健(日本電 信電話(株))

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成 15 年 11 月号 第 48 巻 第 11 号 通巻 515 号

代表者小笠原

発 行 所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル 電話 03-3815-3351代 FAX 03-3815-3352 〒113-0032 http://www.orsj.or.jp/

編集人杉野

発 壳 所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 970円(本体 924 円)年間予約購読料 11,040 円(税含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)へ